

景観

地域の歴史、自然環境及び社会環境等に配慮して景観検討され、地域全体と調和するよう整備された社会資本のある空間は、地域の魅力と価値を向上させ、住民や来訪者に精神的な豊かさをもたらすとともに、後世に引き継がれる大きな資産となります。

景観行政団体（景観法第7条）

景観行政団体とは、景観法により定義される景観行政を司る地方自治体です。管内では、4市2町3村が景観行政団体へ移行されております。

景観重要公共施設（景観法第8条）

景観法では、公共施設とその周辺の建築物等が一体となる良好な景観形成を進めることを可能とするため、景観行政団体が、景観計画区域における重要な公共施設を「景観重要公共施設」とし、景観計画の整備に関する事項等を定めることができます。

沖縄県が管理する公共施設で、管内においては、県道浦添西原線（浦添市）、県道16号線（うるま市）、県道宜野湾北中城線（宜野湾市）が景観重要公共施設として指定されております。（R6.5.時点）

浦添西原線イメージ図



（安波茶交差点周辺）



県道20号線イメージ図
（沖縄市 くすの木通り地区）

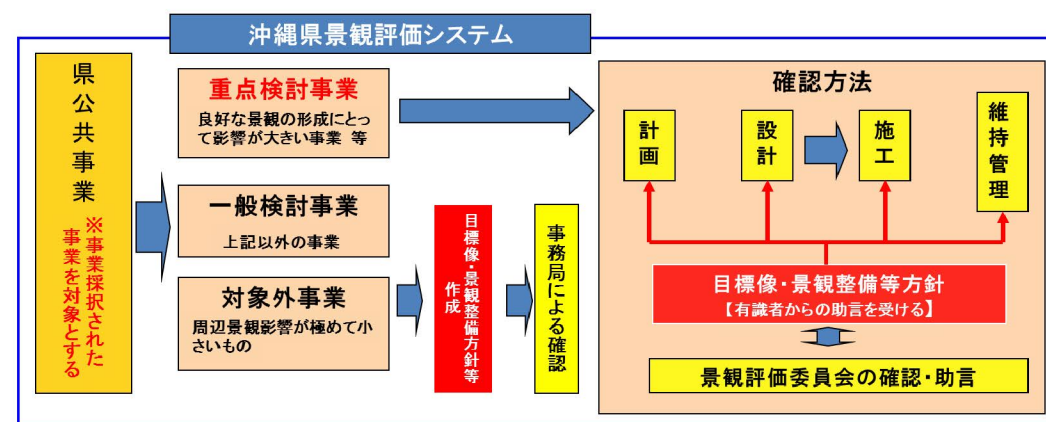


景観地区（県道浦添西原線沿線地区）前田駅周辺

沖縄県景観評価システム

沖縄県景観評価システムは、公共事業におけるライフサイクル全体をととして景観評価を行うことにより、景観に配慮された良質な公共空間を創出することを目的としております。

管内においても、条件に合致する事業に対して重点検討を行う予定としております。



河川

災害の防止、流水の正常な機能保持と親しみのもてる水辺環境の整備を行います

二級河川 9水系 12河川(51水系75河川)
準用河川 3水系 5河川(13水系21河川)
※ ()は、県全体

管内の河川概要

管内には県知事管理の2級河川が9水系12河川、市町村管理の準用河川が3水系5河川あります。

沖縄の河川は、その地形的条件として河川延長が短く、急勾配になっており流域面積が小さいことがあげられます。河川を整備するにあたっては、洪水による災害発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の保持を図るとともに、親しみの持てる水辺環境に配慮して、令和5年度は、4水系6河川で事業継続し整備を進めています。

比謝川



比謝川
多自然川づくり
沖縄市の都市緑化整備事業と一体となり、平成14年度～平成20年度に掛けて整備された水辺プラザ。



平成24年に2級河川の指定を受けた国道330号より上流部の未整備箇所。

比謝川は、沖縄市と嘉手納町を流れる流域面積50.9km²、流路延長15.9Kmの県下最長の2級河川です。当該河川では、流域内の都市化の進展に伴い浸水被害が多発していたことから、流下能力向上のため、与那原川合流地点から国道330号までの約7.3kmの区間において、河道掘削、護岸整備を推進しております。国道330号付近では、沖縄市の都市緑化整備事業と連携し、河川と公園を一体的に整備することにより、水と緑の潤いのある空間として水辺プラザ（ギークグスク公園）を創出しており、地域の交流拠点となっております。

当該河川においては、米軍基地内の整備が滞っている状況にあることから、早期に整備に着手できるよう米軍との調整を進めていきます。

現在、沖縄市越來地内のかやま橋からせいしじゃ橋までの区間の整備を推進するとともに、平成24年度に2級河川に指定した国道330号より上流部約1.4km及び平成30年度に整備計画に追加した与那原川合流地点より下流部約1.5kmの整備についても国や地元の自治体、自治会などの協力を得て、事業の進捗を図ります。

事業開始年度：昭和54年度

整備内容：護岸工 L＝14,600m

総事業費：約228億円

小波津川【西原町】

整備済み箇所



小波津川は、西原町を流れる流域面積3.8km²、流路延長4.4kmの2級河川です。

当該河川では、周辺の都市化に伴う河川への流入量増加や現況の流下能力の不足が相まって、集中豪雨による洪水被害が頻発していることから、河口から佐明橋までの約3.8kmの区間において、河川改修を推進しております。

現在、国道329号の小波津川橋から西原町役場付近までの区間を整備しています。令和8年度頃の整備完了を目指しており、その後は町役場より上流の整備を進めていきます。

事業開始年度：平成15年度
整備内容：護岸工 L=3,800m
総事業費：約85億円

白比川【北谷町】

未整備箇所



白比川は、北谷町を流れる流域面積8.3km²、流路延長3.0kmの2級河川です。

当該河川は、河川断面が狭小なため、浸水被害が多発していることから、国道58号の白比橋から大村橋までの約1.0kmの区間を整備することとしています。河川の大部分が米軍基地内に位置しているため、整備が遅れている状況です。

令和2年3月に河川部分を含むキャンプ瑞慶覧の一部が返還されており、現在は沖縄防衛局が支障除去措置を行っております。支障除去措置が完了次第、下流側から護岸の整備を進めていきます。

事業開始年度：平成13年度
整備内容：護岸工 L=1,000m
総事業費：約29億円

与那原川【沖縄市 比謝川水系】

未整備箇所



与那原川は、比謝川の支流で、沖縄市を流れる流路延長6.4kmの2級河川です。

当該河川は、河川断面が狭小なため、台風時の集中豪雨により、たびたび浸水被害が発生していることから、比謝川合流地点から上流約2.5kmまでの区間を整備することとしておりますが、下流部が米軍基地内に位置しているため、整備の進捗が遅れている状況です。

現在、軍用地の返還について、関係機関と協議を行っているところであり、早期の整備の実施を目指します。

事業開始年度：平成5年度
整備内容：護岸工 L=2,520m
総事業費：約12億円

天願川【うるま市】

整備済み



天願川は、うるま市を流れる流域面積30.9km²、流路延長10.7kmの県内では比較的大きな2級河川です。

当該河川では、河川断面が狭小により浸水被害が多発していることから、河口から国道329号上流付近までの約6.5kmの区間において、整備を推進しております。

平成22年2月に米軍のキャンプコートニー内の米軍用地の返還承認があったことから、現在、当該地の護岸整備を推進しております。

事業開始年度：昭和47年度
整備内容：護岸工 L=6,515m
総事業費：約149億円

川崎川【うるま市 天願川水系】

未整備箇所



川崎川は、天願川の支流で、うるま市を流れる流路延長3.8kmの2級河川です。

当該河川は、河川断面が狭小なため、台風時の集中豪雨により、たびたび浸水被害が発生していることから、天願川合流点から川崎橋までの約0.6kmの区間と国道329号ボックスカルバートから元川橋までの約0.5kmの区間において、整備を推進します。

現在、天願川合流点から川崎橋までの整備に向けて、必要な用地取得を鋭意行っているところです。

事業開始年度：平成24年度
整備内容：護岸工 L=1,100m
総事業費：約14億円

倉敷ダム管理所

倉敷ダムの概要

沖縄本島中部に位置する沖縄市の自然溢れる緩やかな丘陵地帯を流れる比謝川は、与那原川、長田川と合流し、東シナ海へと続く流域53.4km²、幹線流路延長16.6kmの本島最大の流域面積を持つ河川です。

比謝川総合開発事業（倉敷ダム）は、比謝川水系与那原川上流に昭和36年に建設された利水専用の旧瑞慶山ダムを、利水と治水の両目的を兼ねた多目的ダムとして再開発する事業で、国と沖縄県企業局の共同事業として昭和57年度より建設に着手し、総事業費490億円を投入し平成8年3月に完了しました。そして平成8年4月、沖縄県土木建築部が管理する「倉敷ダム」として生まれ変わり、わたしたちの暮らしを支えています。

倉敷ダムの目的

沖縄本島は平均降水量が約2,000mmと雨が多いのが特徴です。

しかし、台風が襲来する夏期や梅雨時に降雨が偏っているため、洪水や渇水の被害をうけやすくなっています。

倉敷ダムは洪水による被害を防除し、水道用水の安定供給を図り水と暮らしの調和を図っております。

●洪水調節

ダム地点の計画高水流量90m³/sのうち、80m³/sの洪水調整を行い、10m³/sを放流し、比謝川堰（基準点）における基本高水ピーク流量710m³/sを660m³/sに低減してダム下流地域の水害を防除します。

●流水の正常な機能の維持

ダム地点下流の与那原川と比謝川沿川の既得用水、維持用水の補給を行うなど、流水の正常な機能の維持と増進を図ります。

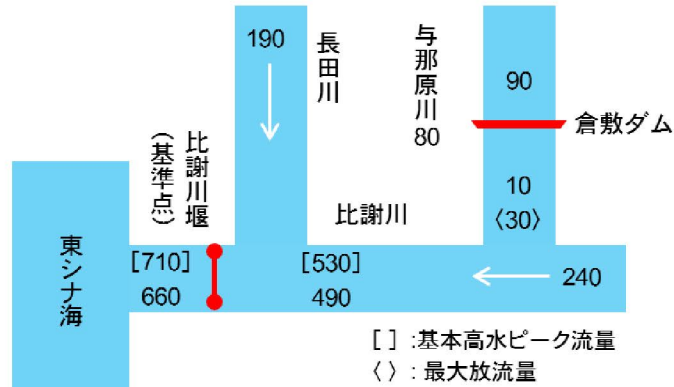
●水道用水の開発

倉敷ダムへの流入河川水に本島北部河川（上図の4河川）からの導水を加えることにより、沖縄本島の水道用水として最大50,600m³/日を供給します。



※倉敷ダムへの導水は、4河川（赤で示す）からとなります。

倉敷ダム



計画高水流量配分図（単位 m³/s）

港湾

重要港湾や地方港湾などの整備を行います

概要

管内の港湾は、重要港湾の中城湾港、金武湾港、地方港湾の宜野湾港の3港があります。

中城湾港は、新港地区、泡瀬地区、熱田地区津堅地区、アギ浜地区、西原・与那原地区（西原町管内）の6地区があり、令和7年度は、新港地区で東ふ頭の荷さばき地舗装工事や臨港道路に架かる橋の耐震補強工事、泡瀬地区でスポーツコンベンション拠点に向けての基盤整備を行っております。

金武湾港は、石川地区、天願地区、屋慶名地区、平安座南、西地区、宮城地区、伊計地区、浜地区、比嘉地区の9地区があり、平安座南地区において、航路浚渫による航路の整備を進めていきます。

金武湾港、中城湾港は、広大な水面と水深10～50mを有する天然の良港で、地理的条件に恵まれていることから昭和40年代から製油所、CTS（石油備蓄基地）、石炭火力発電所等が進出し、エネルギー基地として重要な役割を果たしています。また、漁業振興に資するために漁業施設の整備や、余暇時間の増大に伴う遊漁船及びプレジャーボート等のための船だまり施設も整備しております。

管内港湾の整備状況は、金武湾港、中城湾港、宜野湾港において、外郭施設や水域施設、係留施設、港湾環境等の施設を拡充し、整備の重点も生活関連施設（港湾緑地）等へと時代の要請に対応しております。

主要施設の現況



金武湾港

金武湾港は、沖縄本島中部の東海岸に位置し、北の宜野座村漢那から南の勝連半島まで1市1町1村にまたがる約19,400haの広大な海域を有する港湾であり、港口部から湾奥部まで適度な水深があることから、大型港湾の適地として注目され、その後の各港湾計画の整備目標に従い、各地区の施設整備が進められてきました。

- 港格：重要港湾
- 港湾管理者：沖縄県
- 指定年月日：昭和47年5月15日
- 所在地：1市1町1村（宜野座村、金武町、うるま市）

港湾の施設概要及び整備状況

港湾名	地区名	現況 (R4. 4. 1)			整備中	
		施設名	数量(m)	最大対象船舶(トン数)	施設名	数量(m)
重要港湾	金武湾港	物揚場 (-2.5m)	351	10G/T		
		船揚場	150			
		浮桟橋	1基			
		物揚場 (-2.5m)	60	30G/T		
		比嘉	物揚場 (-2.0m)	30		
		船揚場	40			
		浜	物揚場 (-3.0m)	65	100G/T	
		物揚場 (-2.0m)	85	30G/T		
		伊計	物揚場 (-2.0m)	50	30G/T	
		宮城	船揚場	100		
	中城湾港	物揚場 (-2.0m)	30	30G/T		
		船揚場	150		臨海道路	420
		天願	物揚場 (-2.5m)	50	30G/T	
		物揚場 (-2.0m)	150	30G/T		
		浮桟橋	1基	20G/t		
		平安座南	物揚場 (-2.5m)	620	10G/T	航路浚渫
		船揚場	100		+DL -3.0m 巾30m	2,000
		石川	物揚場 (-2.5m)	290	10G/T	
		物揚場 (-3.0m)	100	100G/T		
		津堅	物揚場 (-2.5m)	180		
地方港湾	宜野湾港	船揚場	50			
		浮桟橋	1基	20G/t		

※新港地区・泡瀬地区は、P24、P25、P26を参照